

子どもがかかりやすい感染症のしおり

H29.4 福井市子育て支援室

病名	病原体	感染経路	潜伏期間	症状	登園のめやす
咽頭結膜熱 (プール熱)	アデノウイルス (3、4、7、 11型)	飛沫感染 接触感染	2~14日	39度前後の発熱、咽頭 発赤、咽頭痛、結膜の充 血、目やに、夏季に多い。	主な症状(発熱、咽頭発赤、眼 の充血)が消失した後2日を経 過するまで
インフルエンザ	インフルエンザ ウイルス	飛沫感染 接触感染	1~4日 (平均2日)	全身倦怠感、突然の高 熱、咽頭痛、関節痛、筋 肉痛、鼻水、咳<合併症> 肺炎、中耳炎、熱性けい れん、脳症	発症後最低5日間かつ解熱した 後3日を経過するまで ※「発症」とは、「発熱」の症状 が現れたことを言います。
結核	結核菌	空気感染 飛沫感染	2年以内 特に6ヶ月以 内に多い	咳、痰、発熱 乳幼児では重症結核(粟 粒結核、結核性髄膜炎) になる可能性がある。	医師により感染のおそれがなく なると認められるまで
水痘 (みずぼうそう)	水痘・帯状疱疹 ウイルス	空気感染 飛沫感染 接触感染	14~16日 (10~21日)	発しんは体幹から全身 に頭髪部や口腔内にも 出現する。紅斑から丘 疹、水疱、かさぶたの順 に変化する。発しんはか ゆみ強い。	すべての発しんがかさぶたにな るまで
百日咳	百日咳菌	飛沫感染 接触感染	7~10日 (5~12日)	感冒様症状からはじま る。次第に咳が強くなり、 1~2週で特有な咳 発作になる。咳は夜間に 悪化する。合併症がない 限り、発熱はない。	特有な咳が消失するまで又は5 日間の適正な抗菌性物質製剤に よる治療を終了するまで
風しん (三日はしか)	風しんウイルス	飛沫感染 接触感染	16~18日 (14~23日)	発熱、淡紅色の発しん (顔・身体)、後頭部・ 頸部リンパ節の腫れ 発しんは約3日で消失	発しんが消失するまで
麻しん (はしか)	麻しんウイルス	空気感染 飛沫感染 接触感染	8~12日 (7~18日)	発熱・咳・鼻水・目やに 等 熱が一時下がるとコブ リック斑(頬粘膜に小 さい斑点) 再発熱後赤みが強い発 しん	解熱した後3日を経過するまで (病状により感染力が強いと認 められたときは長期に及ぶこと もある)
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	ムンプスウイルス	飛沫感染 接触感染	16~18日 (12~25日)	耳下腺の腫れが主症状 で、顎下腺も腫れる。痛 みもある。	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹 が発現してから5日を経過する まで、かつ全身状態が良好にな るまで
流行性角結膜炎 (はやり目)	アデノウイルス8、 19、37型	接触感染 飛沫感染	2~14日	結膜の充血、目やに	医師において感染の恐れがない と認められるまで(結膜炎の症 状が消失してから)
腸管出血性 大腸菌感染症	ベロ毒素を産生 する大腸菌 (O157、O26等)	経口感染 接触感染	3~4日 (1~8日)	激しい腹痛、頻回の水様 便、さらに血便 発熱は軽度	症状が治まり、かつ、抗菌薬に よる治療が終了し、48時間をあ けて連続2回の検便によって、 いずれも菌陰性が確認されたも の
ウイルス性肝炎	A型	A型肝炎 ウイルス	15~50日 (平均28日)	発熱、全身倦怠感、食欲 不振、悪心、嘔吐、黄疸	肝機能が正常であること
	B型	B型肝炎 ウイルス	45~160日 (平均90日)	全身倦怠感、発熱、食欲 不振、黄疸 慢性肝炎では、自覚症状 は少ない	急性肝炎の場合、症状が消失し、 全身状態が良いこと キャリア・慢性肝炎の場合は、 登園制限はない。
アタマジラミ	アタマジラミ	頭髪から 頭髪への 直接接触 や衣服、 帽子、櫛、 寝具を介 する感染	10~14日	小児では多くが無症状 であるが、吸血部分にか ゆみを訴えることがある。	駆除を開始していること

手足口病	エンテロウイルス 71 型 コクサッキー ウイルス A16 型等	飛沫感染 糞口（経 口）感染 接触感染	3～6 日	水疱性の発しんが、口 腔、手のひら・足の裏・ 足の甲 に現れる。発熱は 軽度 発しんはかさぶたにな らない。	発熱がなく（解熱後 1 日以上経 過し、）普段の食事ができること
伝染性紅斑 （りんご病）	ヒトパルボ ウイルス B19	飛沫感染	4～14 日 （～21 日）	軽いかぜ症状後、頬が赤 くなったり、手足に網目 状の紅斑が出現 発しんが治っても、直射 日光や、入浴で発しんが 再発することがある。 （稀に妊婦の罹患によ り流産や胎児水腫がお こることがある。）	全身状態がよいこと（ 発しん が 出現する頃には感染力は 消失し ている ）
伝染性軟属腫 （水いぼ）	伝染性軟属腫 ウイルス	接触感染	2～7 週間 時に 6 ヶ月ま で	直径 1～3 mm の半球 状で中央にくぼみのあ るいぼの一種で、手足や 腹部、背中に数個～数十 個出る。	掻きこわし傷から 滲出液 が出て いるときは覆うこと
伝染性膿痂疹 （とびひ）	黄色ブドウ球菌 A 群溶血性レンサ 球菌	接触感染	2～10 日	湿疹や虫刺され後を掻 いた部分に細菌感染を 起こし、びらんや 水疱 をつくる。	皮疹が乾燥しているか、乾燥し ていなければ覆うことができ る程度のものであること
ヘルパン ギーナ	コクサッキー ウイルス A 群	飛沫感染 接触感染 糞口感染	3～6 日	突然の高熱 （1～3 日）、 咽頭痛、口腔内の水疱・ 潰瘍	発熱がなく（解熱後 1 日以上経 過し、）普段の食事ができること
単純ヘルペス 感染症	単純ヘルペス ウイルス	接触感染	2 日～2 週間	口内炎 口周囲の水疱 治癒後は潜伏感染し、体 調不良時にウイルスの 再活性化が起こり、口 角・口唇の皮膚の移行部 に水疱ができる。	発熱がなく、よだれが止まり、 普段の食事ができること
マイコ プラズマ肺炎	肺炎マイコ プラズマ	飛沫感染	2～3 週間 （1～4 週間）	咳、発熱、頭痛などのか ぜ症状が進行し、特に咳 は徐々に激しくなる。3 ～4 週間咳が続く場合 もある。	発熱や激しい咳が治まっている こと （ 症状が改善し全身状態が良 い ）
感染性胃腸炎 （ウイルス性 胃腸炎）	ノロウイルス ロタウイルス アデノウイルス等	経口（糞 口）感染 接触感染 食品媒介 感染 吐物から の空気感 染等	ノロ ウイルス 12～48 時間 ロタ ウイルス 1～3 日	発熱、下痢、嘔吐	嘔吐：（普段どおり食事がとれ て）嘔吐が 24 時間以上ないこと 下痢：（普段どおり食事がとれ て）健康便が確認できること
溶連菌感染症	A 型溶血性レンサ 球菌	飛沫感染 接触感染	2～5 日	突然の発熱、咽頭痛、痒 みのある粟粒大の発し ん	抗菌薬内服後 24～48 時間経過 していること
R S ウイルス 感染症	R S ウイルス	飛沫感染 接触感染	4～6 日 （2～8 日）	発熱、鼻汁、咳、喘鳴、 呼吸困難、冬季に流行。 乳児期の初期感染は重 症化しやすい。	咳や喘鳴などの呼吸器症状が 消 失し 、全身状態が良いこと

※『保育所における感染症対策のガイドライン』（平成 24 年 11 月改訂：厚生労働省）より抜粋

※感染経路の注釈

飛沫感染：感染している人が咳やくしゃみ、会話をした際に、口から飛ぶ病原体が含まれた小さな水滴（飛沫）を近くにいる人が浴びて吸い込むことで感染する。

経口感染：菌で汚染された水・食物が口に入り感染する。

接触感染：感染している人に触れることで伝播がおこる直接接触（握手、抱っこ、キスなど）による感染と汚染された物を介して伝播が起こる間接触による感染（ドアノブ、手すり、遊具等）がある。

空気感染：感染している人が咳やくしゃみ、会話をした際に、口から飛び出した小さな飛沫が乾燥し、その芯となっている病原体が感染性を保ったまま空気の流れによって拡散し、近くの人だけでなく、遠くにいる人もそれを吸い込んで感染する。

糞口感染：便に排出された病原体を口から摂取することによって感染する。

★ 症状・経過に異なることがあるので、医師の治療を受け、その指示に従ってください。